2026年11月13日

各　位

会社名　株式会社AKIBAホールディングス
代表者名　代表取締役社長　白鳥　俊昭
（東証スタンダード・コード番号 6840）
問合せ先　取締役管理本部長　五十嵐　英
（TEL. 03-3541-5068）

2027年３月期 通期連結業績予想の公表に関するお知らせ

当社は、最近の業績動向を踏まえ、未定としておりました2027年３月期の通期連結業績予想を公表することといたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

１．2027年３月期通期連結業績予想値の公表（2026年４月１日～2027年３月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	１株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円　銭
前回発表予想（A）	未定	未定	未定	未定	未定
今回公表予想（B）	36,500	1,800	1,650	1,000	108.87
増減額（B－A）	－	－	－	－	
増減率（%）	－	－	－	－	
(ご参考)前期実績(2026年３月期)	26,782	1,290	1,372	883	96.14

２．業績予想の公表の理由

当期（2027年３月期）の通期連結業績予想につきましては、生成AI向けの投資が継続する一方、主力のメモリ市場において主要メーカーの生産体制の変化に伴う需給および価格動向を慎重に見極める必要がありました。また、地政学リスクに伴うコスト変動や急激な為替変動など不確定要素も多く、業績への影響を合理的に数値化することが困難であったため、期初時点では「未定」としておりました。

しかしながら、当第２四半期までの業績進捗が確定するとともに、足元の事業環境や下期の受注動向等を精査した結果、通期業績予想の合理的な算定が可能となったため公表いたします。

具体的には、生成AI需要の拡大を背景に、主力のメモリ・PC関連デバイス・IoT事業およびHPC事業が、積極的な顧客接点の拡大や大型案件の獲得等により、売上・利益ともに好調に推移しております。一方で、米国の政治情勢変化に伴うデータセンター向けAIインフラ投資への規制強化懸念や市場変動といったマクロ環境の不確実性に加え、主要部材の調達難や納期の長期化も見受けられるため、これらの想定される影響を一定のリスクとして保守的に業績予想に織り込んでおります。

また、通信建設テック事業につきましては、上期は一時的に案件の仕掛に注力する期間となりましたが、下期においては豊富な受注残を有する再生可能エネルギー関連案件や通信キャリア向け基地局工事が進捗することから、連結業績への寄与を見込んでおります。

今後の事業環境の推移や案件の進捗状況等により、実際の業績は本予想から変動する可能性もございますが、当社といたしましては各種施策の着実な遂行により、確実な業績の積み上げと、さらなる成長の実現に努めてまいります。

以上

※なお、上記の業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後の様々な要因により変動する可能性があります。